

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Centimetres



山東庵京山譯 文政丑春

稗史水滸傳三編

歌川國芳画 下卷

金老もろろがさう
 ろよりこれ松葉で
 わたさうしく二うのを
 かけまてあひま
 ちてアのてうの
 官人のそがさ
 ちりる小やう
 ひそくに
 ささやな
 官人方に
 コロひまこさま
 ころあまこの人か
 はあまのわさう一馬より
 かりて金老をまてて入ま
 ろころ小むひまわくとくを
 ねーれまてるころのまてにかせんぬ
 りぐくまてるねん金老さうよふさいせんも
 くらくまてるまてるころむすめあせうよ
 るのやてまのんがらとやあまこいすまのち

①てねはに
 あり今人馬を
 まててさ
 きまてあひ
 ゆまてと

ちすめと二うはてしてひもく酒をのまを
 ちすめと二うはてしてひもく酒をのまを
 ありのりあひまてるころのう女とあま
 ぬねのりものもあまんとそれ
 せんさんとてさまてさうまひーあり
 かるうんてさうをわてあまのこひ
 くれらるころ負外も方本はひまて
 負外も方本はひまて
 をねててま下れたるをさけーのも
 きまてあひまてさうまてさうまてさうまて

かたがたまるくすゝまのいしをかたがた
 けりこののがりもすゝまのいしをかたがた
 にてのゝめてちのえんを
 りははらへるるるるるる
 さるるるるるるるるるる
 しきりたよき男をね
 負外太不解速を
 本の一りのかくて
 は夜ハハハハハハハハ
 こゝろをりるるる
 は西六ちまこにちかくて
 るるるるるるるるるる
 あーるるるるるるるる
 つとてうがすゝまのいしをかたがた
 かねてまの目酒をすゝまのいしをかたがた
 のいしをかたがたのいしをかたがた
 いひるるるるるるるる
 つこのまのいしをかたがた

魯達



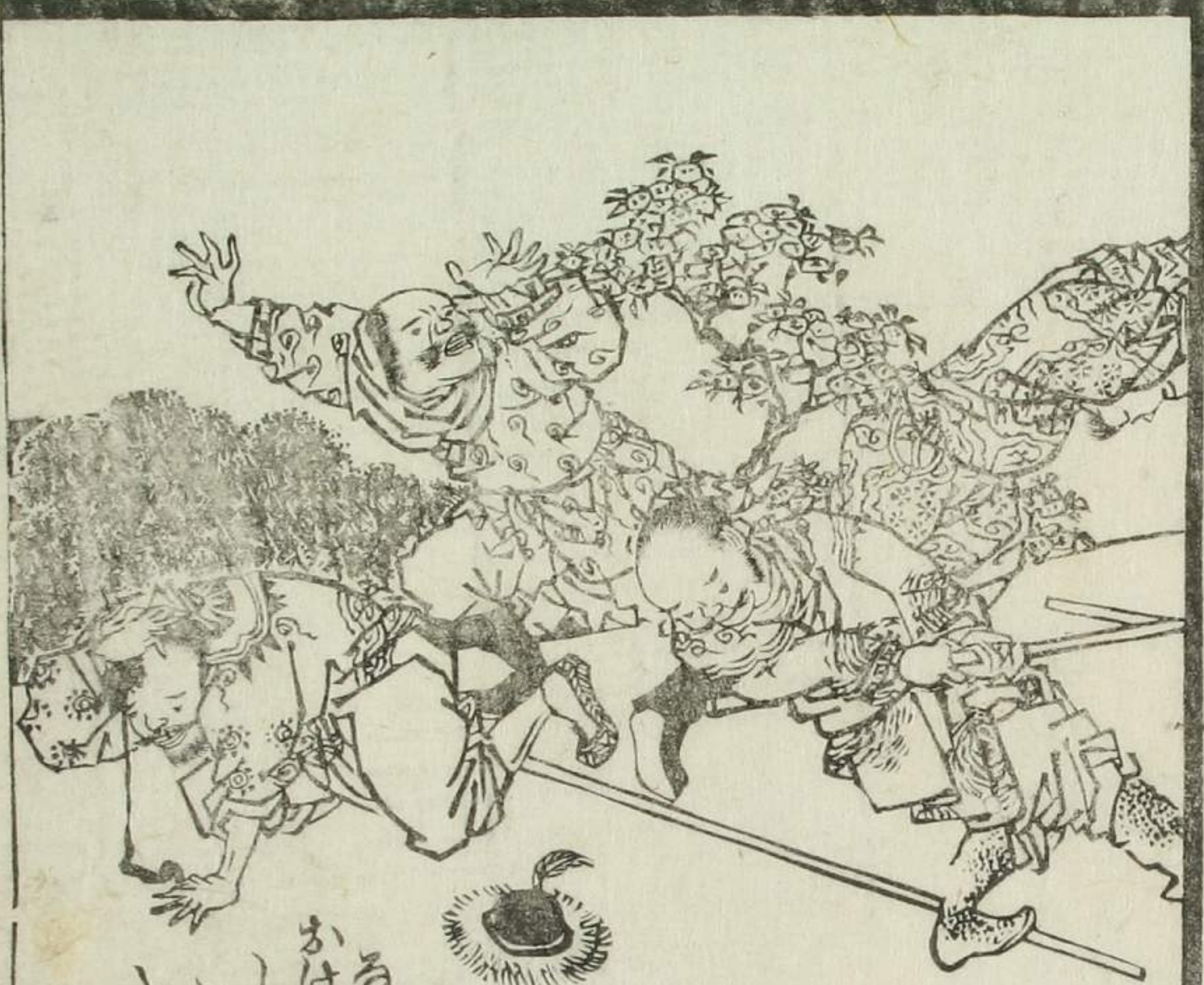
まのいしをかたがた
 あるるるるるる



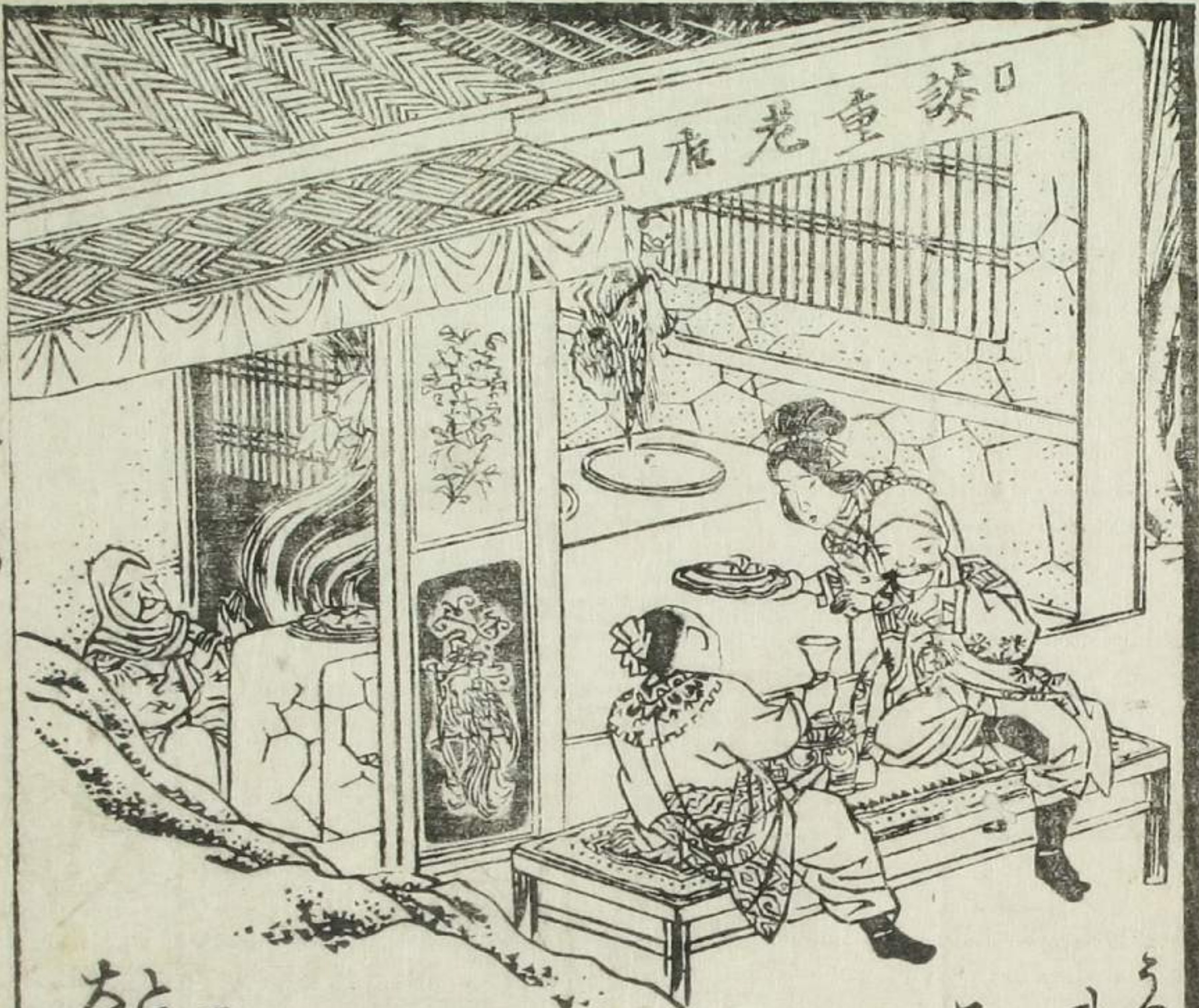
まのいしをかたがた
 なるるるるるる
 づたよくまのいしをかたがた
 されはまのいしをかたがた
 さるるるるるるるる
 こゝろをりるるる
 なるるるるるる
 るるるるるるるる
 りちひあふまのいしをかたがた
 今死地におちいりてまのいしをかたがた
 ぬいちやうなるるるる
 せんぬいちやうなるるるる
 負外いしをかたがた
 このまのいしをかたがた
 五ヶ山とのいしをかたがた
 文殊院とのいしをかたがた
 りるるるるるる



〇〇〇をよびて大僧の極小いさぶとまきりに
 不れあひらねてしどもころもくちあひ
 只心とちてちりぞれたりのかそ次
 法慧をひらいてるるを頼むせしめ
 名を普智源とぬい寺内のかすま
 めん念修堂にすぬせらるるを
 めん念修堂をすりのりらるるを
 不いいますよしてきくに学僧の頼む
 のふにたれど元徳ありたれ首座
 つはうれなことも普智源がころの
 老のゆひるたれらるるよども
 けりあたてころあひあるこ
 さとーれねるあじんがころのけ
 のにすてあたりのころころ
 こふあつと四五ヶ月あせにて
 徳のそどもにりてり天まつたて
 ちらうころにぢきうといとり
 山門をのぞくあちこちのまひのま
 山のまやくにめるまきとふ入



まののひすりにすりかやて
 風景をさるめけつうあひた
 俗よりしとたすの日内をさる
 酒をのまざる日於し超負分
 コレぬすめて出家させしより
 このころ酒内へあひひにけげ
 けざりの自介よりもころとるて
 せいせいとこのまきり酒なる
 のまきりこのつぬまきりあや
 一人の男捕をふらひらこ
 ろい酒の山をのりまきり
 おれりく軒子に入るとまきり
 ろちあかろくは捕りまきり酒
 ろんたあやまのころとるこ
 かけるるあせとるれらるるこ
 して酒のりとのふる直んとは
 うまとのいふあまらき福尚
 六むとあまのころとるにけん
 さる酒をうらまきびしき
 ころとるこの酒の男しめに



三尊老童

うろく二桶と瓶
 ものきもひさふげ
 さりなりちまん
 これ酒をてかろくこま
 コロヒこの身をもちま
 さるまのてせせ附
 をりの身をまあろろが
 酒のきもこのひさふげ
 のかりちふあひてあも
 まどろひさふげのりま
 めきせせろろに入ろるる
 瓶のひさふげあろろ西ふ
 よろく東にしろちたは山門
 ひさふげのりまこれ酒を
 ちにおろろ酒をひさふ
 山ろろ入るこまあろろ
 二人の口は酒をひさふ
 とちちまろろにひさふ
 ちふひさふ二人のりま
 これ酒をてかろく山内を

酒肉飯

うろく二桶と瓶
 ものきもひさふげ
 さりなりちまん
 これ酒をてかろくこま
 コロヒこの身をもちま
 さるまのてせせ附
 をりの身をまあろろが
 酒のきもこのひさふげ
 のかりちふあひてあも
 まどろひさふげのりま
 めきせせろろに入ろるる
 瓶のひさふげあろろ西ふ
 よろく東にしろちたは山門
 ひさふげのりまこれ酒を
 ちにおろろ酒をひさふ
 山ろろ入るこまあろろ
 二人の口は酒をひさふ
 とちちまろろにひさふ
 ちふひさふ二人のりま
 これ酒をてかろく山内を



曾智深は

酒をてかろくこま
 のかりちふあひてあも
 まどろひさふげのりま
 めきせせろろに入ろるる
 瓶のひさふげあろろ西ふ
 よろく東にしろちたは山門
 ひさふげのりまこれ酒を
 ちにおろろ酒をひさふ
 山ろろ入るこまあろろ
 二人の口は酒をひさふ
 とちちまろろにひさふ
 ちふひさふ二人のりま
 これ酒をてかろく山内を



ついでに... 長老... 智深... 戒... 四五日... とおりの...



に... 二... 戒... 大相国寺... との... 大相国寺... の大相国寺... の山... 名... 大... の... と... の...

種ま山東庵京山譯
史と水え滄傳え四編
歌川國芳画
上卷



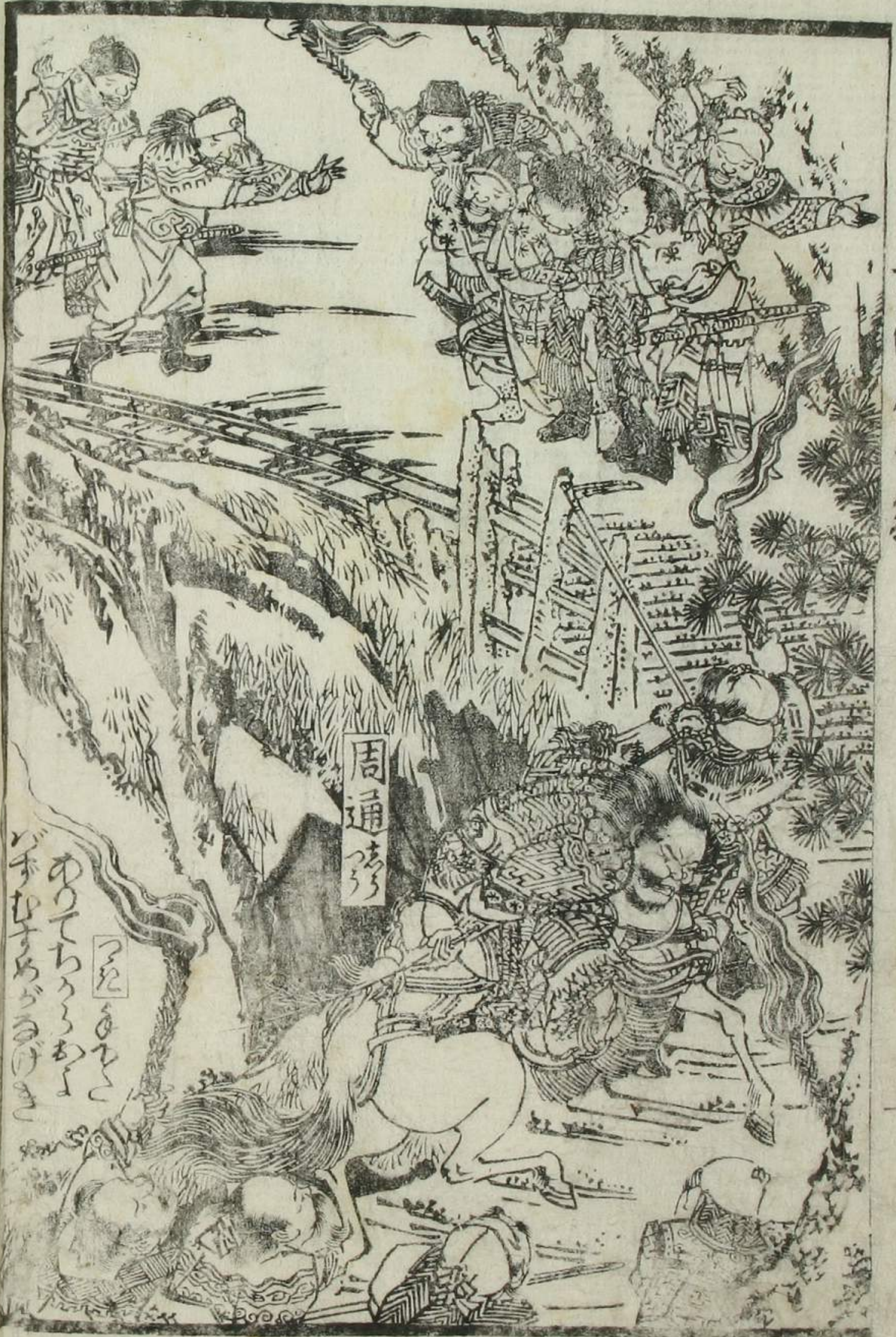
山東庵京山譯 文政丑春
 神水濟傳四編 上卷
 歌川國芳画

返る子の春京傳新繪本水滸傳再編
 大よ世も行る故今日編成神画作筆
 新編より王殿諸賢一覽表
 舟洋成賜ハ幸甚々 永壽堂 敎白

上巻のつらさをわびるに魯智深
 劉太公のいかにせらりて見おりに
 のづらやきたはこゝろ孤身下けるが
 ほろろあつて老公が申すに
 まるふらふと申す人のみづから
 こゝろせつらひいふものあり
 ろちあんとれ孤身といふものあり
 いふものありてこそいふものあり
 かくあつてあつていふものあり
 こゝろせつらひいふものあり
 とりてこそいふものあり
 己れをいふものあり
 ちあんとれ孤身といふものあり
 大にいふものあり
 をあつていふものあり
 それ孤身のいふものあり
 どや大にいふものあり
 ありあつていふものあり
 つらさをいふものあり

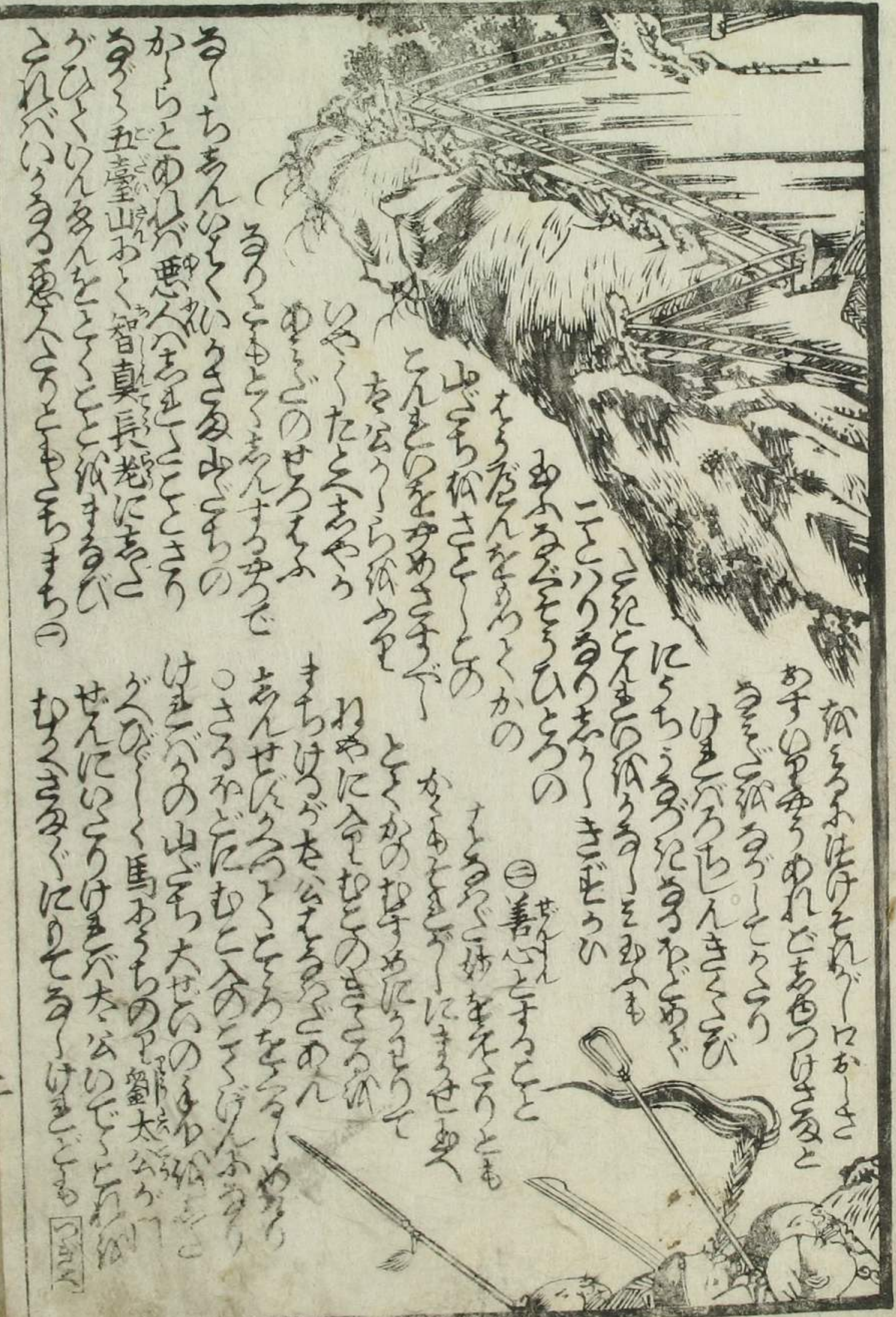


わきま
 かのりやさんとのての 桃花山
 小ぢ山とのかゝら
 つけさぶわと入のてでも
 ちんことすさともあつていふものあり



つたもて
ゆつてちううお
はすむすめがるけき

周通



あつちあんゆりゆうさるゆさりの
かららとゆい悪人へあはれことさ
るまゝ五臺山おく智真長老にあ
かひくひん多人をとことか
これいりる悪人へとま

あつちあんゆりゆうさるゆさりの
かららとゆい悪人へあはれことさ
るまゝ五臺山おく智真長老にあ
かひくひん多人をとことか
これいりる悪人へとま

水滸傳四卷

三



つれ花よ

李忠 記

のにおか
えきり
けいん
ゆきち
これか
やう
といひ
いこう
かによめ
ひでさる
太公を
まねた
友公い
つうむすめいしきいごもの
ごてくまねたもちあそび
ひさりねをにうしての
さるさる大王うらう
お母のうらう
つしきううと

④ いちぢおふぞと
身をせんごころ
とれ智深山ごころ
ありふをまうとつら



魚目智深 記

① ひとねが山ご
あまねあま
おれ
うらう
つうまね
まねた
さるさる
太公に
るのさせ
ねをに
るれ
太公
のさ
うすけり
山ご
にさ
るふ
大いけ
ぞるふ
ぞるふ

ゆうのえにねちたやまんあ
女房のこめねごころ
てろのころにあきり
つらろこゆねありてつら
うらにうらねが山ご
とあねゆげうらう
たまけあうまけひ
ろろ太公の
こを

④ まま
太公に
ひまらふ
とらねやの
にまらる山ご
とや火のひろ
ふとねね
後あにわ
身のこけ
大尺
の天
はま
おと
けん
けん



李忠

ついで

ついで

ついで

魚沼

① りやこのちぢぢ
まねちぢぢに
おげうせり太公
とねねんて
乃ちあんにわさひ
和尙いふるは
くわのひまのひを
ひまのひとれ
くはふふゆめ
あゆまかき
あきびまきさうて
こつひまゆと
とあをぬか
けまのちん
らちのひ
太公このちぢぢ
めあふとまうれ
己れらの大王を



劉太公

虎の

たのひま
まこつとも
一人あつてね
らりひまの
こつひまの

小治政の四巻

ついでとあるこのあめ
禅杖をよせにり毛
はつに五の人のあつた
うさうはなをてつと
はちちあにんじんは
とつとつとつとつと
あんのてつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと



入部
四

たつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと

あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと



あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと
あつとつとつとつと

山

大相国寺... 宗廟... 日... 宗廟... 日...

魯智深



魯智深... 宗廟... 日... 宗廟... 日...

魯智深... 宗廟... 日... 宗廟... 日...

魯智深... 宗廟... 日... 宗廟... 日...



周通

周通... 宗廟... 日...

周通... 宗廟... 日...



かてこれの松
身あまにたると
いひたれはあらん
まうりくまう
うまうたあ
ふりふあう
李忠太公ハ馬をさうて

もの
が
山に
のあり
まうり

ろちあんが
しつと
あてよのせ
せはてかの
〇こふま
李忠太公ハ
いひたれは
うまうたあ
ふりふあう
李忠太公ハ馬をさうて



大に
李忠
山に
のあり
まうり



つねのわごいひくはに
一そめつとわの
ゆめはなるとまゝ

せんきのゆま...
せんきのゆま...
せんきのゆま...
せんきのゆま...
せんきのゆま...
せんきのゆま...
せんきのゆま...
せんきのゆま...
せんきのゆま...
せんきのゆま...

元弘店西村主人

○まじにあらる
まじにあらる
まじにあらる
まじにあらる
まじにあらる
まじにあらる
まじにあらる
まじにあらる
まじにあらる
まじにあらる

いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...

魚智深



いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...
いさるもせとこと...

ついで

とてふるといふやごもあつた
 うさんと山小の
 金銀をうづひ
 とつてこの山を
 不げきりそる
 ゆうせくかどう
 うさんと山小



けを
 松の木に
 つけ
 金銀
 金の
 うら
 金の
 金の
 金の



とて二人の
 ままろちまんを
 とつて
 松の木に
 つけ
 金銀
 金の
 うら
 金の
 金の
 金の

山小
 山小
 山小

のり
 三人の
 金の

此は...
...



了也 戒刀をさげ
山陣を
させいでけるが
なまら
山にさるる
かへりまきとる
ゆれり
ゆらゆらと
ゆる

莫楚賽擬選軍談初編 馬琴作 袋入合本上下各二册

この冊子の唐漢楚の國談を新朝義仲の傳記に合しとせり。終りまで拍子木の携りて
幾方紛連下解 夢をま真の假名目自然の心とて存じ、莫楚楚の舞ふこととて人物地景自國の
故事の心をいかにまよとせしむ。この巻をひくとなるるにまよとて、又あつて、まよとて、まよとて、

かあトク 第二編 同作 同画 全八号 合本代枚入 上下各二册

擬太平記演義三國志初編 馬琴作 全八号 合本四册

この書も右の莫楚の唐山國漢楚のたぐい太平記の世景をよみて、一頁も漏れざるに、まよとて、
亦遠くまよとて、何れ行りまよとて、且その書名を掲げ、四方のいひなき方小報なす、何れか、

雅俗用文 神田景笠翁作文 中本 全一册

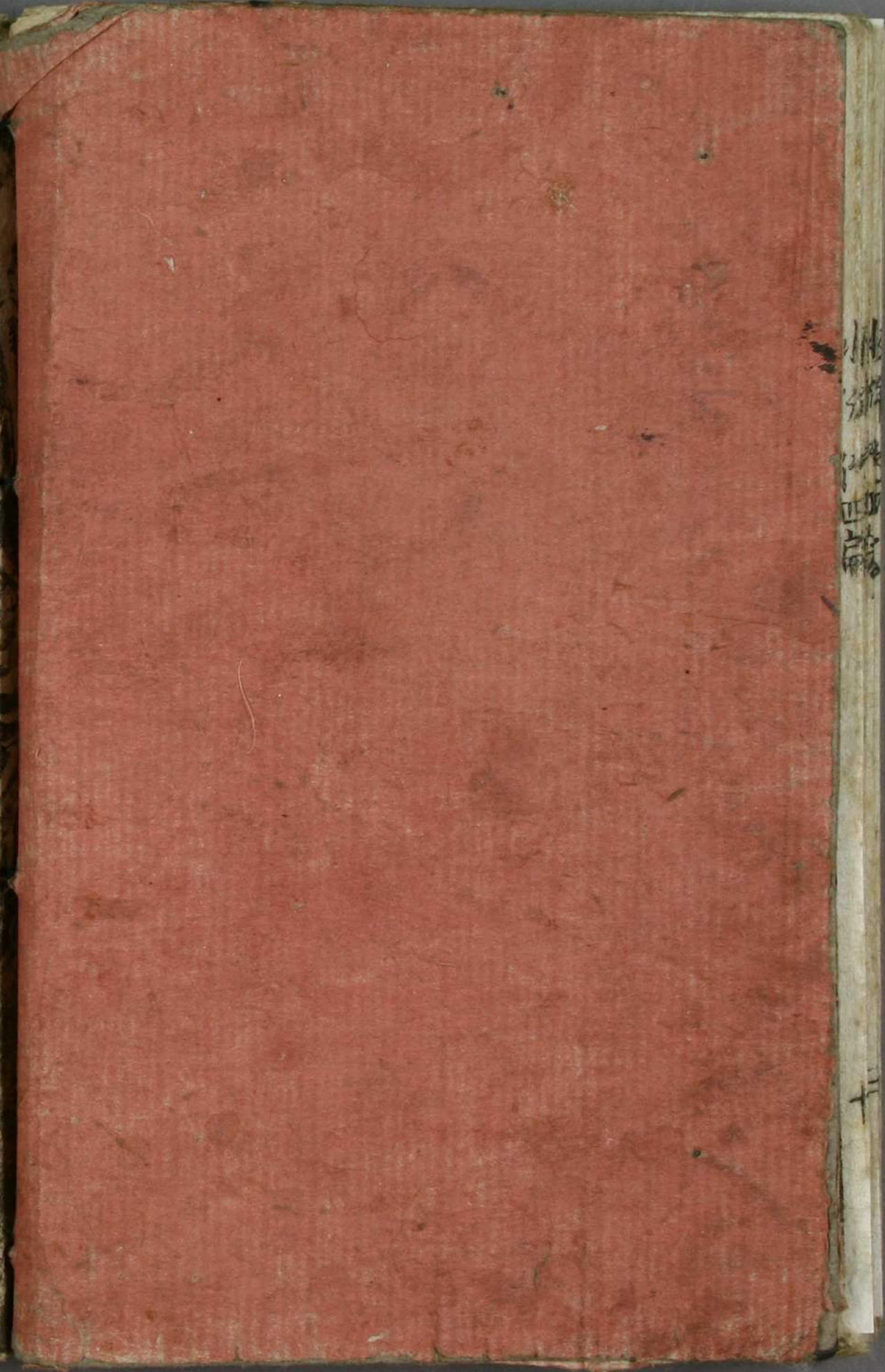
この書も中々、雅言を難し、簡易なるは、奥の字義を出し、注し、わかれ、儼然と、まよとて、
まよとて、まよとて、まよとて、まよとて、まよとて、まよとて、まよとて、まよとて、まよとて、まよとて、

書林并地本問屋 江戸馬喰町二丁目永寿堂西村屋與八板

史
水滸傳
下卷
四編

山東庵京山譯

歙川國芳画



水滸傳

十

山東庵京山譯 文政丑春

稗史水滸傳四編

歌川國芳画 下卷



十丈あきりの
 鉄瀬杖
 七人の侍



日夜このしき瓜きかめを働らけ
 一人のびおんをさかひはてしなく
 乃らぐちうごころのわくとさう
 いぬのごうにやまひあた
 くのわまんの志うくをわさく
 へみまじうやじ草庵ふ合おた
 とふまじうやじ草庵ふ合おた
 ときひくつられけらぐ
 ことふくやにさぎさく
 ことふくやにさぎさく
 ことふくやにさぎさく



十一
 山僧一人の
 こりてつれ
 とありが住寺
 をさうり
 けれがで
 のこらばおけ
 うせらりその
 ちうわく
 一人の
 老僧おける
 おもあけ
 らまげ
 うの

大抵 此の山に於ては
 僧尼の修行の場なり
 故に 草木の生長も
 人の手によるものなり
 此の山は 昔より
 名僧の修行の場なり
 故に 草木の生長も
 人の手によるものなり
 此の山は 昔より
 名僧の修行の場なり
 故に 草木の生長も
 人の手によるものなり
 此の山は 昔より
 名僧の修行の場なり
 故に 草木の生長も
 人の手によるものなり



魚智深



北山 四席

北山 四席

つゆわくはばよきとて
 せうとておぼしあひ
 つまなりくはのちらになら
 をとる目をとせむりねん
 ありるちんたおの年をかる
 大してたわやあまの二日おめ
 ゆいさくへはあててうか
 るんちんまきあはんとま
 くれをわきむくあんとま
 つけくひいれあまのま
 めぬひまきこころひあま
 ことつりありのむれい
 つれれろことこころか
 とく二人の目もあまの
 こころ女をまがひま
 ことあまのけまあま
 ちふいのちれあま
 にあまのちれあま
 旅のじろのり
 あしはまあま



曾知深徳



鉄禅杖をひらさび
 かこたのり
 これあまに

女冠中なるつとてしを
 けぞ一不のいまに
 たのそはまみむるへ
 ゆん二人ののこれか
 きこくあきつらひるんぢ
 いのちぢいむむやの
 口をたさるめふれをや
 まきさるだうとれあつけまが
 ろちまんすすつうひりこれ今
 ろんぢいさをこしりあせうう
 とあにうとまをとるだうと
 涙せんせうけうちぬりそんり
 うかんなま二入ひとくおどのひせ
 まつ一人のあせう刀をぬりまきさる
 うりまがうとらうひうてまじがまは
 見と一人の山ゆまらううり二人の
 のどもろあえんをまきんでてうひの
 このとえろちまんかろあつうれとちろ
 大おとろくひまがひれひとまらては
 ふひさうてまらけうちぬりまきさる



魚目智深るん

小幡内四番



をばす
 ろちあんれ
 ばまらたれい
 ろんぢいさるに

二人の
 おせう
 一人の
 びん

②はあ人をころれ
 ぶしと切てむ力を
 ひらへかしてゆきを
 まあうくおげさうけり

二人の
 これか
 まきさる
 二人の

十四



かひひ
るん
こふれあ
るん
さるん

かひひ
るん
こふれあ
るん
さるん

かひひ
るん
こふれあ
るん
さるん

かひひ
るん
こふれあ
るん
さるん

かひひ
るん
こふれあ
るん
さるん

かひひ
るん
こふれあ
るん
さるん

かひひ
るん
こふれあ
るん
さるん



魚智深

九紋竜

三
 なまめのにあつはまがせぬ
 めの依名のせとあまきとせと
 経界の提轄魚智深の今入とん
 えんくく魚智深とのすのめり
 コテテ六つての八つとつとつとつと
 のとつとつとつとつとつとつとつと
 コ子れあひしつとつとつとつとつと
 手のりてつとつとつとつとつとつと
 九紋竜てあつとつとつとつとつと
 たるひつとつとつとつとつとつと
 うこの石にじとつとつとつとつと
 パキううのうとつとつとつとつと
 パキとあつとつとつとつとつとつと
 めくあつとつとつとつとつとつと
 あんあつとつとつとつとつとつと
 ものつとつとつとつとつとつとつと
 こつとつとつとつとつとつとつと
 あんあつとつとつとつとつとつと
 せんとあつとつとつとつとつとつと
 せんとあつとつとつとつとつとつと

九紋竜



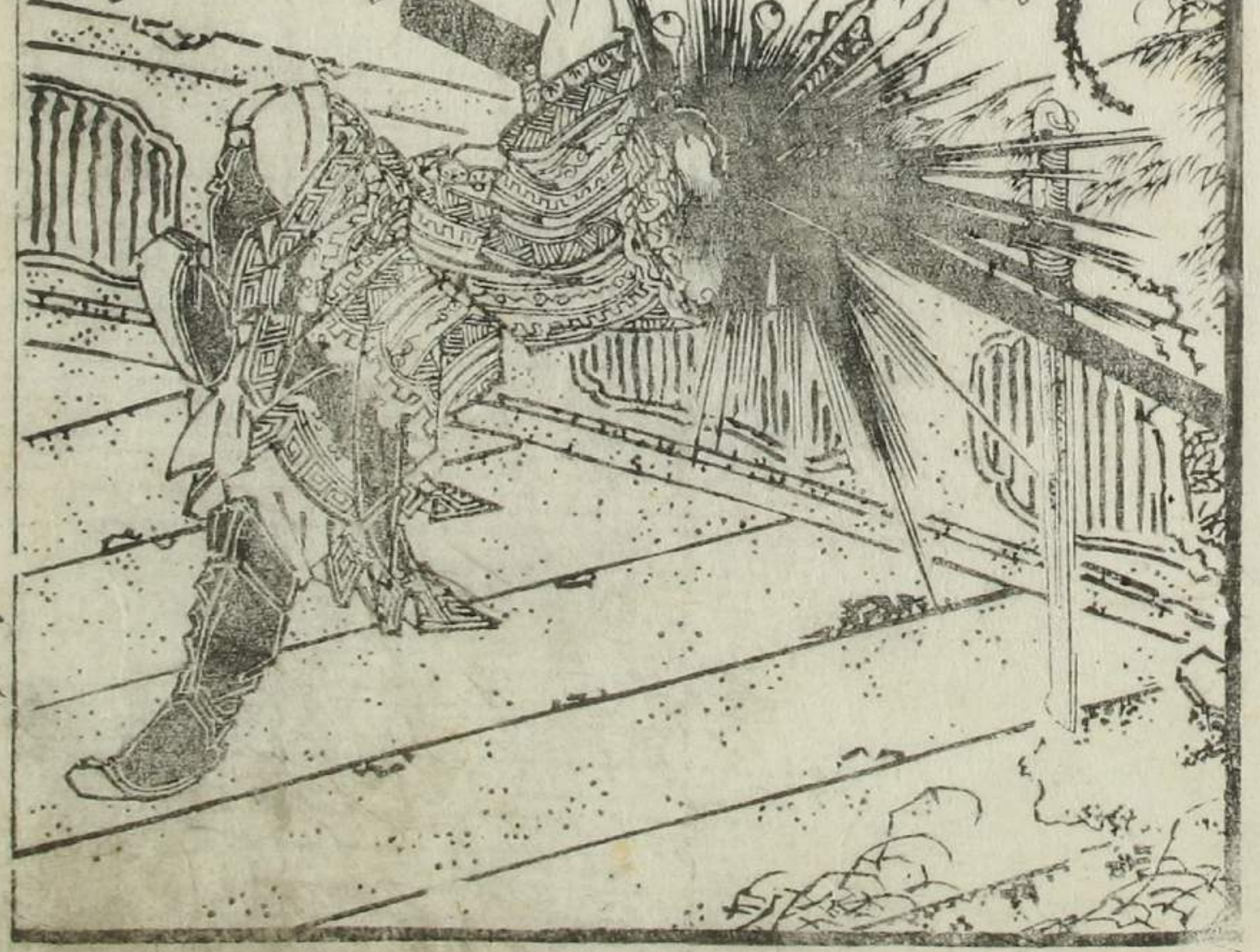
三
 なまめのにあつはまがせぬ
 めの依名のせとあまきとせと
 経界の提轄魚智深の今入とん
 えんくく魚智深とのすのめり
 コテテ六つての八つとつとつとつと
 のとつとつとつとつとつとつとつと
 コ子れあひしつとつとつとつとつと
 手のりてつとつとつとつとつとつと
 九紋竜てあつとつとつとつとつと
 たるひつとつとつとつとつとつと
 うこの石にじとつとつとつとつと
 パキううのうとつとつとつとつと
 パキとあつとつとつとつとつとつと
 めくあつとつとつとつとつとつと
 あんあつとつとつとつとつとつと
 ものつとつとつとつとつとつとつと
 こつとつとつとつとつとつとつと
 あんあつとつとつとつとつとつと
 せんとあつとつとつとつとつとつと
 せんとあつとつとつとつとつとつと

〇此の身をさすふらちく
 てんしあひしとまき一
 ありけれもあつちをたち
 さりかのあんのんふり
 九枚龍巻
 たるむらあす
 あつちをさす
 ぐんをたあ
 ぶちちちる金
 つれててあん
 るんおせり
 ひをせん
 ちりひにこの
 ちりひにねま
 ちむとまじし
 はあむらつとこの
 めすえんあすちるま
 こりしてちこのものあ
 る金のとすけふちん
 と



魯智深

ちりひにさすふらちく
 ありけれもあつちをたち
 さりかのあんのんふり
 九枚龍巻
 たるむらあす
 あつちをさす
 ぐんをたあ
 ぶちちちる金
 つれててあん
 るんおせり
 ひをせん
 ちりひにこの
 ちりひにねま
 ちむとまじし
 はあむらつとこの
 めすえんあすちるま
 こりしてちこのものあ
 る金のとすけふちん
 と





とまきつを
こほしを
さくらねね
こらち
とらと
しひねが
山崎いふも
まらあのとく
石むのむら
にうねくもち
まながまきつを
○たむねくもち
をまきつ



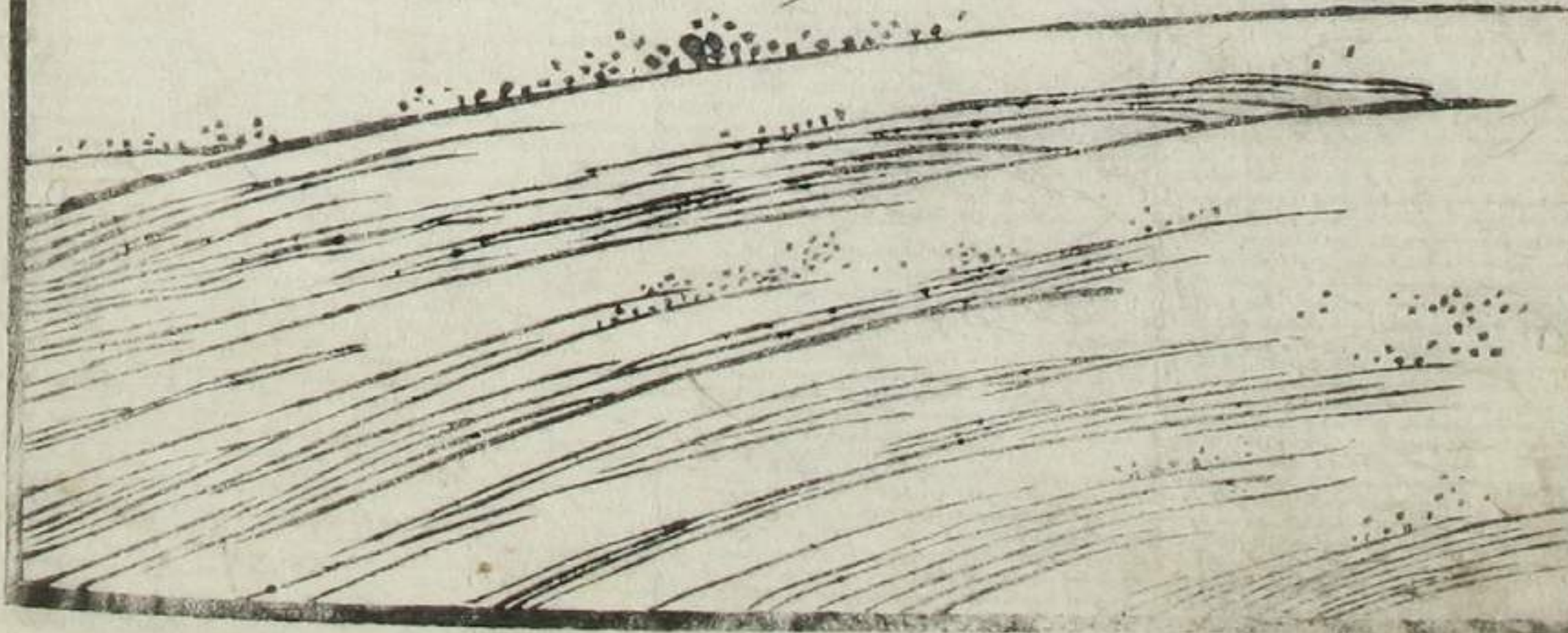
つひつにま
さ乃とまきつ
わくこらわ
とあうらふ
おにあたふ
とらと
うのあわ
まらあのとく
はあまらあ
④
まきつを
こほしを
さくらねね
こらち
とらと
しひねが
山崎いふも
まらあのとく
石むのむら
にうねくもち
まながまきつ
○たむねくもち
をまきつ

⑤
まきつを
こほしを
さくらねね
こらち
とらと
しひねが
山崎いふも
まらあのとく
石むのむら
にうねくもち
まながまきつ
○たむねくもち
をまきつ

石むのむら



十娘にありけき九人甲争うへこびふくじ
 かの色一人石座のわたりにいりたる附々の
 わくそりわりのまじりたるちゆひまき
 八天命ふたはるるのそりて己がひんじ
 をうけよまき刀柄まき切くから
 ろしんをんさうにもまがすちんは
 鳴らうちわひがわくそりすだに
 わゆうく又はけれがの山ゆわ
 くれいごきまらうる九人甲争うこれ
 まきくのうげりはし甲のゆゆ
 こうちあわいぐわゆわわ
 山ゆわけをゆゆつけくひを
 うまにににまきたるうのちりま
 つまめゆつけくひとろその
 ひまふろしんわくそりうがから
 まちんふちりり
 〇まきゆらまき
 とりまきか
 三人のそりるひふ
 のあぢんかまけ



①
 死ふるこ
 あんこね
 こくたに
 むれまの
 またさ
 あらうま
 けこのま
 トま
 死かゆ
 ひらふせ
 こま
 大
 あん
 コ
 さ
 久

九紋竜

會留茶

山川... 編輯



作者の口ずけ
このりのちのり...
西村と八坂...
ゆゑのゆゑ...
まゝにまゝに...

○白牡丹...
よもや...
百三十三...
▲まき...

○書林永壽堂新刻目録

前北齋為二先生画 自正月至四月
繪本庭訓往來 一冊

文卿堂先生書 後編追々出版
白癡物語 六々園著 全三冊

盆画獨秘 月花永文著 全一冊

還魂紙料 古画古圖 二冊出版

御家手紙之文三後集 蓮池堂先生書 中本一冊

流... 蓮池堂先生書... 世に...

此書の... 繪本庭訓往來... 庭訓往來... 庭訓往來...

白癡物語... 六々園著... 庭訓往來... 庭訓往來...

盆画獨秘... 月花永文著... 庭訓往來... 庭訓往來...

還魂紙料... 古画古圖... 庭訓往來... 庭訓往來...

御家手紙之文三後集... 蓮池堂先生書... 庭訓往來... 庭訓往來...

文政士己丑 新雕繪草紙

山繭養法秘傳抄 北澤始芳大人著 全一冊

画本百千鳥 彩色摺 狂歌入 全三冊

新形染彩目 前北齋 為一老人画 全一冊

活金剛傳 初編 角方の怪談 全一冊

せんきのの妙業 御免持のやつえい

蘭玉屑 陽明堂

此書は山繭の養法を秘傳したるものなり...

此書は八時の海に降るる怪談...

此書は角方の怪談の初編...

此書は蘭玉屑の妙業の御免持のやつえい...

此書は蘭玉屑の妙業の御免持のやつえい...

此書は蘭玉屑の妙業の御免持のやつえい...

漢楚賽擬選軍談 曲亭馬琴作 袋入

代夜待白女辻占 曲亭馬琴作 全一冊

稗史水滸傳 山東京山編譯 袋入

返り月 柳亭種彦作 全一冊

正本製十二編 柳亭種彦作 袋入

七勇婦傳 改名 永春水作 袋入

家内安全集 春川英笑画 全一冊

新笑話 林屋正藏作 袋入

泰平錦繪 英得画 全一冊

鷲權兵衛比尾重政画 林屋正藏作 全一冊

菅原問屋 永壽堂西村屋與八

川...

川...

律リツ 山東庵京山譯
史シ 卜フ 許コ 傳デン 五編
歌川國芳画
上卷



山東庵京山譯

山洋考 五編



林冲の妻

小張婦人

山東庵煎山譯 文政丑春
 神史 水滸傳 五編
 歌川國芳画 上卷

寛政壬子の春京傳海繪本水滸傳再編
 譯して大よせは行る故今日編成補ハ画作
 異より新編と云ふは主飲落異一覽
 下と再洋成賜ハ幸甚と長松閣致白



三
年
三
月
三
日



花和尚倒拔
垂楊柳



柴進 密之食 教頭



柴大官人

八十万禁軍教頭

豹子頭 林冲





むけぬが...
いふたれ...
ろじん...
この...
か...
一...
の...
ね...
い...
か...
い...

五
年
五
節

本...
ま...
の...
け...



魚智深

九紋竜

李四

張三

酒...
の...
か...
強...
正...
酒...
か...
ま...

酒...
か...
か...
ど...
せ...
ま...
た...
か...
の...
こ...

酒...
の...
か...



張三
李四

あはれ口は
まじくはなはらふ
かねはあつたのま
さびはあつたのま
あつたのま
あつたのま

舟の二三の酒客
のまは張三のせ
るまは張三のせ
ゆるまは張三のせ
ゆるまは張三のせ
ゆるまは張三のせ



一ツの酒客は村の
のまは張三のせ
ゆるまは張三のせ
ゆるまは張三のせ
ゆるまは張三のせ

舟の二三の酒客

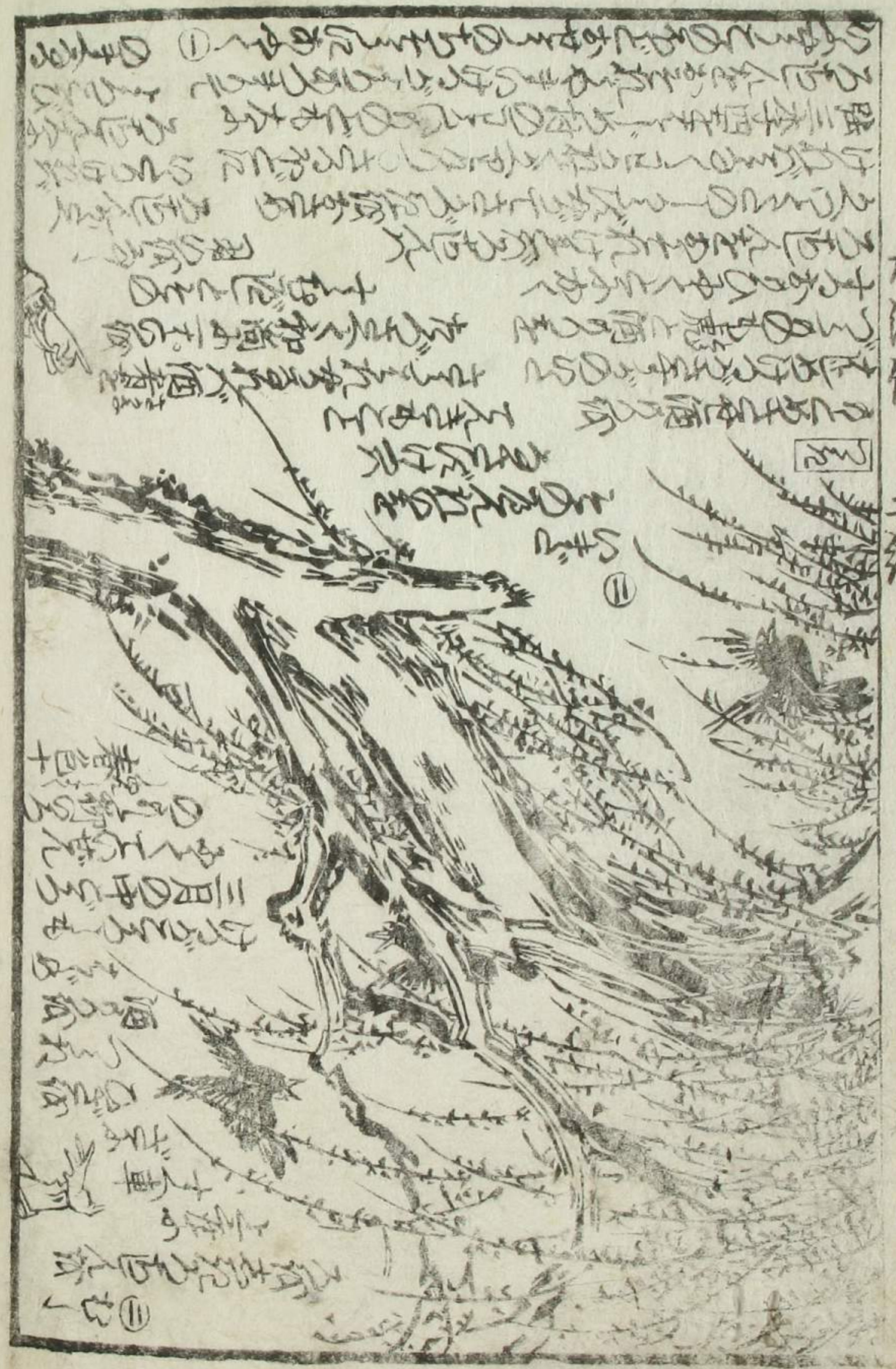
舟の二三の酒客

五

五



3
年
第
五
第



2
年
第
五
第

酒興にまぎれ百ねん松
コ年ねく大ふたのしきなり
このあひのうたのゆるきに
大なる柳の木ゆりたるが
とのでらうは舞を
つるくは松を
めまきまりに
るたけれ
るもじんこれ松
あくまきまも
うはうた
かすあまると
くは松あまると
のさりなり百ねん
りのどもこれ松まき
これくおせうのこめふ
ゆのうすすの 葉をかき
あひまうんとをまきま
柳のりこのりはれ
るまじんもこまきま
てこれ松

林冲



錦兒

アんのにうすの葉かまるとのこまに
あまうひのりこのどもまきま
たのりかかけめぐる李四が
ひらくるんぞまきま
りちあまこれ松の
こまにかけのりんと
とちりる松るまじん
かまあまんち
あまこれ松
るまじんこれ松
柳をかきまきま
うすまのまきま
のまきま
りるまきま
すまきまわげひと
うもあま松の木もむんま
まきま松のまきま
めりまきま松のまきま
まきま松のまきま
りのどもこれ松まきま

林冲の妻





蘭王層

傷寒先受其氣... 目一杯に... 毒に... 此書に... 江戸元弘所

江戸元弘所

小石川春日町 大黒屋長右門 此本の版元 西村屋与八

つたこれれんえに
わは羅漢ふく
かりするらんあまそ
百人のちうらにわ
ぎんぐこの本然ひたぬ
ことあままきいなるバ
くるあまらりあひ
せはににめなれ
るあんとらりのちりを

③ うらまひこれん
やにもこのたひれ
たれぬ日ハ
袈裟杖をつらひて
武けのひえん
ふくまひ
れこの西に在
つれ日のる
まぐ酒りのか
あり

このしをけ

東都書林永壽堂新鑄目錄

神田黄篋翁作文

雅俗用文 全三册

深川文柳堂書

今様擲菴雛形 前北齋為画 全三册

盆画獨替占 月花木々著 全一册

柳亭種彦隨筆

還魂紙料

古画古圖 二册出版

御家手紙之文三後集

蓮池堂先生書 中本一册

流家御手紙之文三後集 高年受出しい 此書は改正し... 雅堂の書は... 蓮池堂の書は...

蓮池堂先生書 此書は... 蓮池堂の書は... 蓮池堂の書は...

山繭養法秘傳抄

北澤始若大人著

全一册

茶の湯早指南

城月齋先生著

白澤圖

宋紫石画

幅

新形染彩日

前北齋

全一册

前北齋為一先生画 自正月至四月

繪本庭訓往来

文殊堂外生書 後編斐出版

繪本虫撰 全二册

喜多川歌麿画

ひらひら歌舞妓物がら

二日目

怪談三島おぢえ

柳亭種彦作

袋入二册 一日さうのまきさうのしりあむ初日あしん

歌川國貞画

正本製两面鏡

彩色摺

柳亭種彦作 歌川國貞画

江の島鎌倉大山往来雙六

前北齋為一画 柳亭種彦撰

為一箱あふれしけ茶のとき真景を写しあられし柳亭種彦國貞の作也

國字水滸傳十編目より追々出版 柳亭種彦譯 歌川國貞画

近松本 蝶衛綴之錦 八册

柳亭種彦作 歌川國貞画

正本製衣十一編 袋入二册

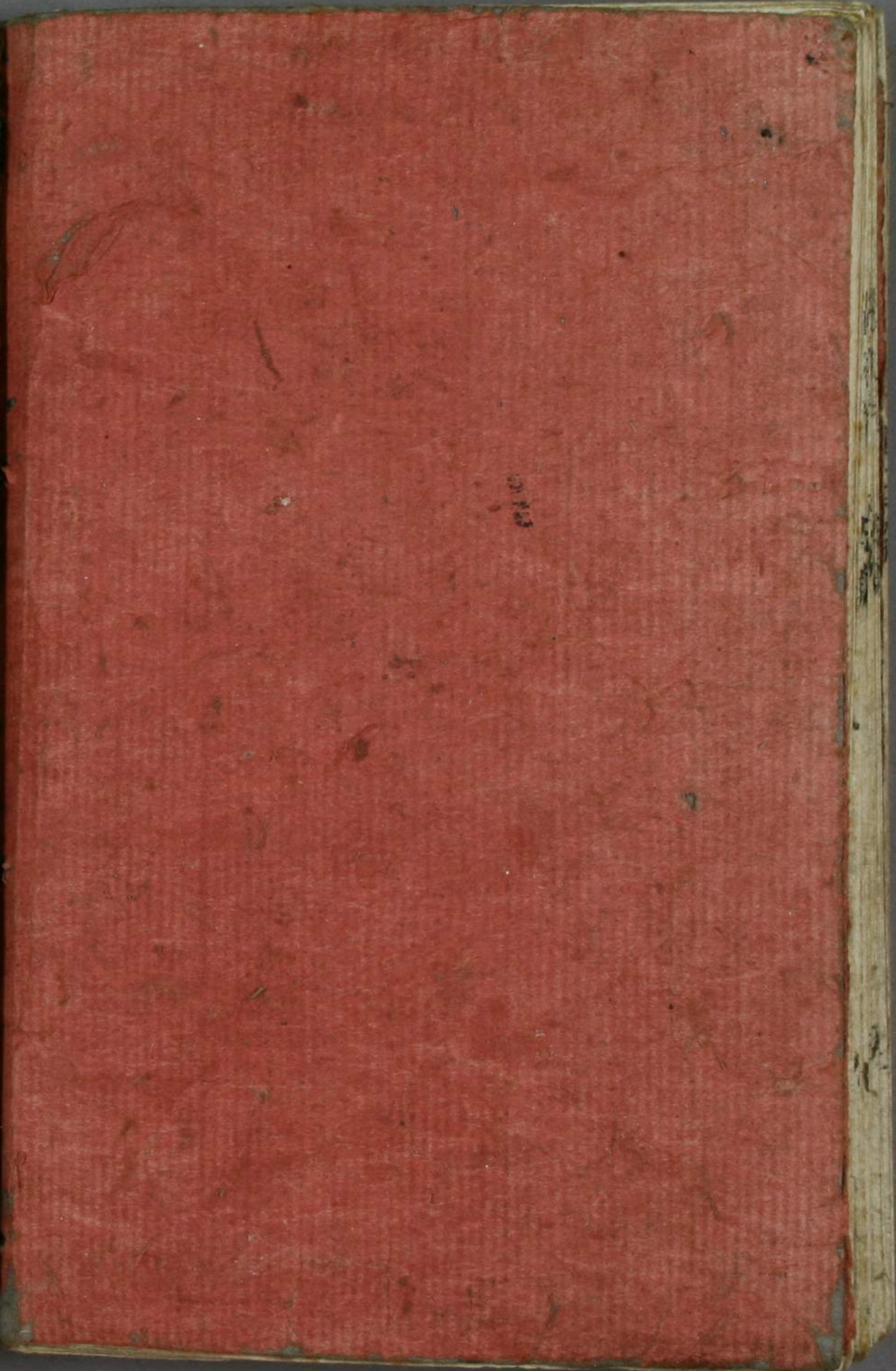
柳亭種彦作 歌川國貞画

江戸書林地本問屋馬喰町二丁目永壽堂西村屋興八

史
水滸傳
下卷

稗
山東庵京山譯
五編

敷川國芳画



山東庵京山譯 文政丑春

稗史水滸傳五編

歌川國芳画 下卷



林冲

魯智深

名

三三三男

教頭

官人

五

三月のそとにさくらが
 けふぬきあはるとも
 故郷のいそぎ
 神まのせせめぎ
 淑仲八郎のゆきとくさた
 ところのつるの強氏八十あふ
 錦見をわねくこらひぐ
 かりまことになさうの
 水谷いせゐるごとく花の
 うんをせうくくをえん
 蝶のこゝろをまぐ人の
 めふはくすまぐさうり
 ぐくく強氏岳廟いさんけい
 ろけりぐあつこの淑仲いまご
 ぐたのいせまぐさうりけれあつぐくまちあ
 きんてくがくびやうのうちにやううひるこの
 あやも高大尉のせられ高衛内とて①



高休男高衛内
 富安松
 林冲ちゅう
 ちゅうまはんとくちふこの
 うごうけりぐこのろのうちにやう



美入おてきまや
 けいけいひまご子ハ
 ろのれどもぬるまの
 うらわらましく

林冲妻

林冲



高御内侍の
高御内侍の
高御内侍の
高御内侍の
高御内侍の

林冲妻



百官のともがらも
あまのついでに
いささかの妻
かそそを
さんけいの
花を
ゆきい
あつせ
まの
あつと
けれ
けい
ま
ゆき
あつ
あつ
あつ

富安

錦兒

めのそらうまむらここの
 いきじのとうたよき
 さんせんしりのふけおまひ
 わる高街ゆづきののり
 どもせせこまきんちぬ
 れらつけこのあふこぬたれ
 とくありぬれいなるあ女
 るけまごちすちるちるま
 どもあうてちるまごち
 たちされとのまきぬらち
 ちるちるちるちるま
 こころにありまごちま
 目ちちるちるちるま
 つれまごちのちる
 うれめあふまごち
 のちゆいごまごち
 きりけり強氏もふゆと
 する高街ゆづきの
 大せのちるちるま

五篇
 五篇

③ 錦兒
 岳びやうの戸てるのち
 おし金ごりそれかまごち
 林沖へ岳びやうにいごち
 大相国寺のかたのりぬと
 けつとまごちのちちと寺
 めづき武はぬのちけま
 けま林沖ゆまごち
 まごちのちちまごち

まごちこれかまごち
 しがあまごちまごち
 ちるまごちまごち
 ちるまごちまごち
 ちるまごちまごち
 ちるまごちまごち
 ちるまごちまごち
 ちるまごちまごち
 ちるまごちまごち



魯智深 (Roshi Shin)
 林沖 (Rinshu)
 錦兒 (Nishiki no Go)
 高街 (Takagatai)
 武 (Bu)
 岳 (Gaku)
 相国寺 (Sangokokuji)
 大 (Ooi)
 寺 (ji)
 武 (Bu)
 林 (Rin)
 沖 (shu)
 岳 (Gaku)
 相 (Sangokokuji)
 国 (ji)
 寺 (ji)



武蔵のせんせの林冲
 さあさあさあその人初
 中すうのさうの秋頭ま
 こまて入るあうううハ
 あせうにたいめんせんと
 大尺の手りのうたねれ
 一とひふあうりこまて
 めとろあじんはこいめん
 ちたがのうをさうのま
 けねはる色んを彼うの
 大木ううこひ林きさう
 とうの父うとへいれむ
 のこまてあうりひとこ
 ろうぬあんのあ色バ一
 すあやさんあうこまて
 わくこまてあうりけ林
 沖を

③七
 ちやま
 〇こにまこ
 かのこ
 きんちの毎ひ
 を不びる林冲を
 たがねとこ
 めがりのうが大相
 トの門せんはの
 とねろ色んにひ
 つけれ酒飲う
 ひそらうりうのうれ
 ときんちがう
 づらうりうがきんち
 めんちくをせゆく
 高橋内

高橋内

林冲を
 かくるべき
 林冲をかくるは
 うらまひある
 かくるべき
 まるき
 のうぢ
 のうぢ
 酒
 酒



林冲をかくるは
 うらまひある
 かくるべき
 まるき
 のうぢ
 のうぢ
 酒
 酒

③ 林冲



高太尉



林冲妻

林冲

つらみの

ちか

もある

えはれ

ハ高

内

す

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

ぬけ

林冲

す

んと

入る

と

き

③

と

き

と

き

と

き

と

き

と

き

と

き

と

き

と

き

と

き

錦兒

と

け

れ

も

も

も

も

も

も

も

も

も

も

も

も

も

も

も

も

も

も

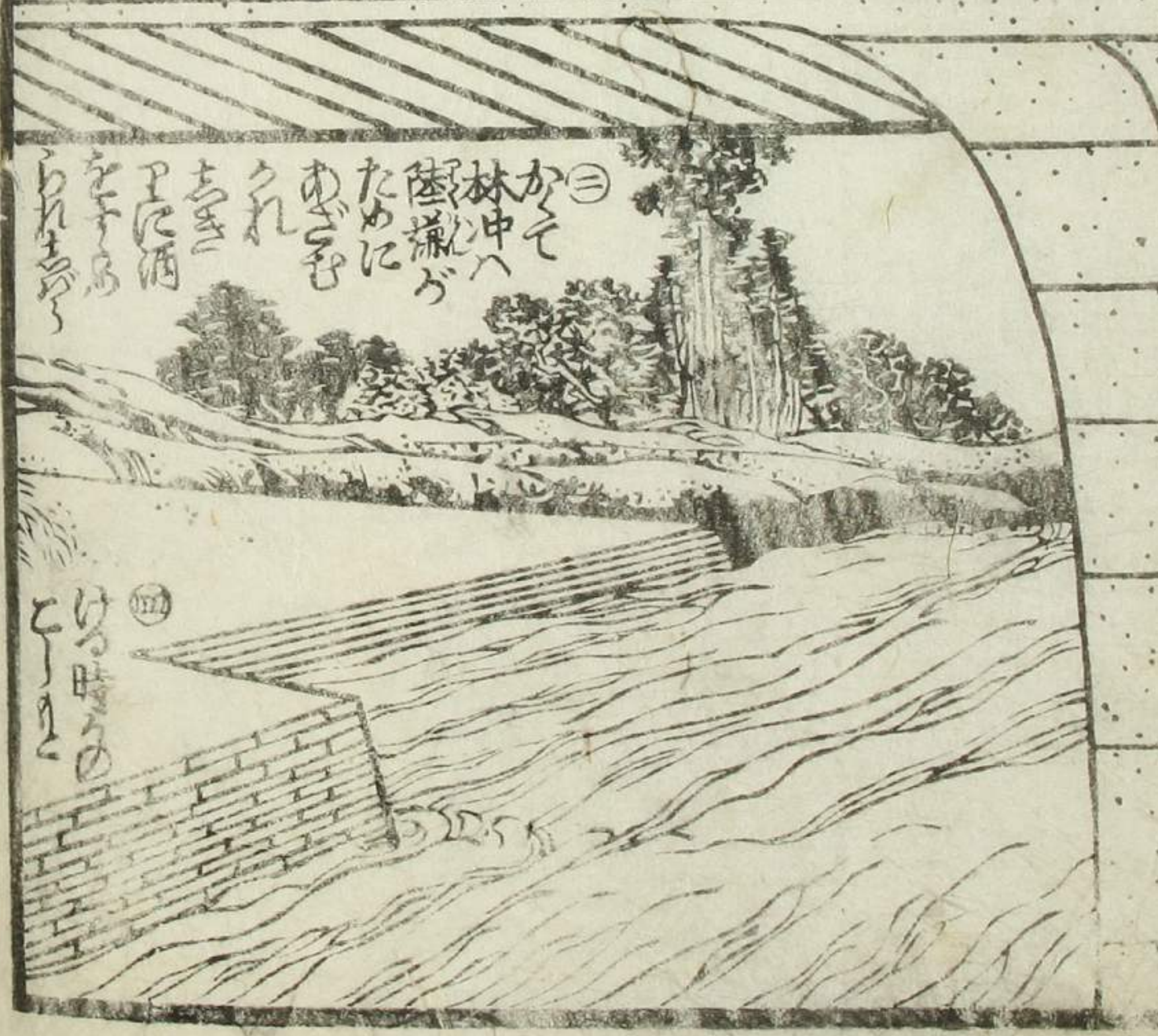
も

も

これ狐をくつりふまてこけいなる
そらうのみのごもてきりりり
林冲をきくごめ殺頭いりり
ごころれうの人らあき酒を
すじまひのむすまきごの肉
かごともあき酒のあいて
ああいあせまのこも今のあき
ありのこれいああもいびま
あやあやと大せいのあきり
けまの林冲いもせん張氏と
きんちと狐あきりあはし兩人を
ひたつれあきりの門せん立ひり
けあはしあきんせんあきりをひり
さげ大せいのあきごごふもせけり
すけきいごふいりあきご高木殿が
あきやあき高木内をあきそれ
あきこれあきあきあきあき
すじのあきあきあきあき高木内を
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

つたにいをね、高衛内との
 うにあらるるのめあつて
 おのれさへなに入るんぢう
 のをまにまうせあつて
 むづびぬとすべし
 ちや陸衛をまひ
 よふむと身をまを
 らせとらうこびん
 こそはまご林沖の妻と
 りもともいけのをとりはせ
 きぬるふま
 のをまをま
 こつと錦兒が
 むひるにまぬ
 るとまじつて
 かるあかの
 陸衛さう
 岳廟して高
 だのうごあふるんぢにわい
 るるさうらまふまじと

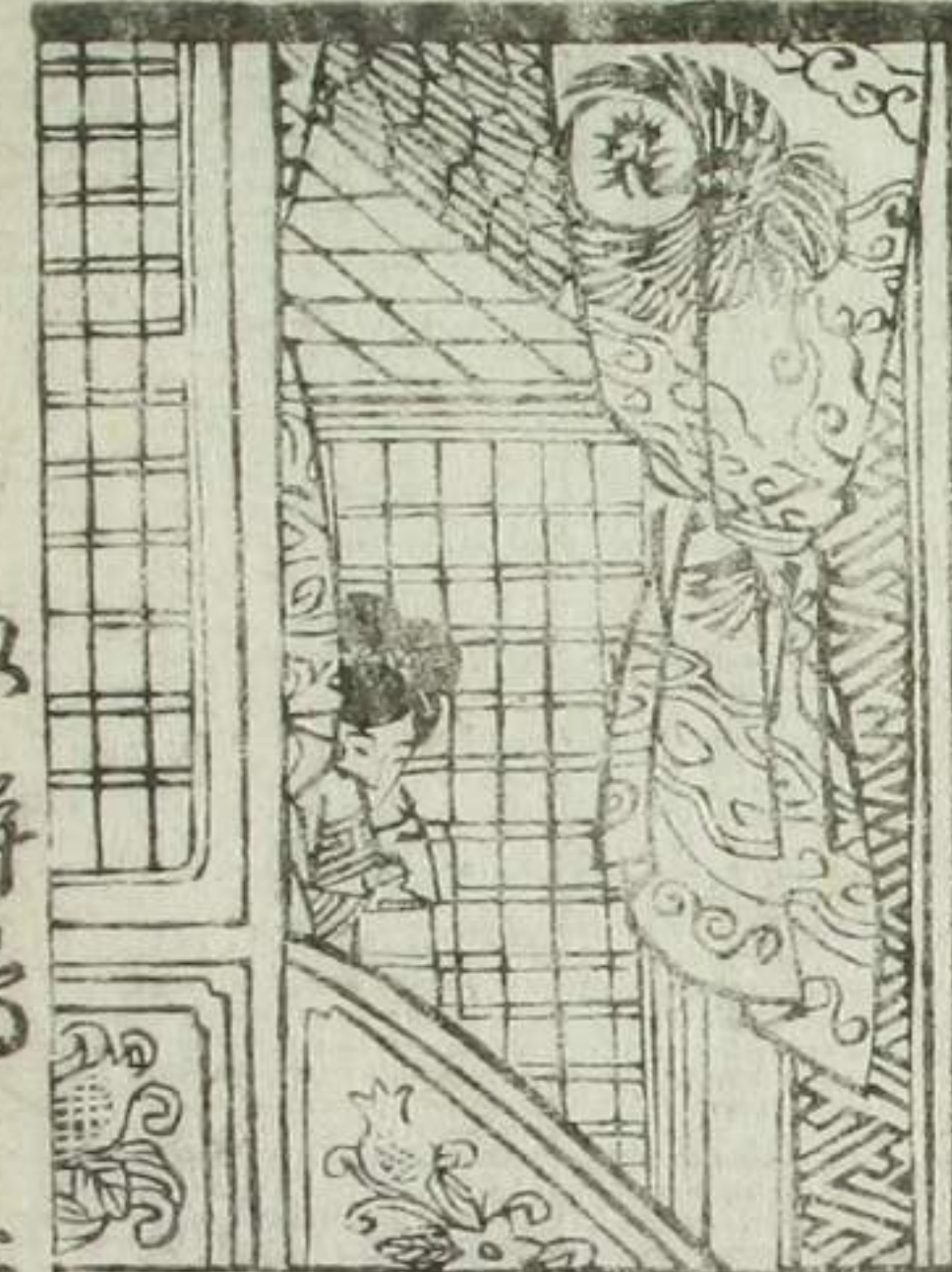
林沖 錦兒



③ かくて
 林沖へ
 陸衛が
 ために
 あさむ
 くれ
 志き
 上は酒
 をす
 られま

④ ける時
こし

志きりに高衛内を
 じに林沖も
 さだにわい
 おのひあらんき
 をしこのめをん
 ろうたのさうて一まの
 すめまじと志きりに
 まあけれ林沖へ
 まうりるとああも
 あらばつるもこのうす
 すあけれ林沖陸衛と
 ともになちいでなり



③ かくて
 林沖へ
 陸衛が
 ために
 あさむ
 くれ
 志き
 上は酒
 をす
 られま

④ ける時
こし

可成て反かへせしむ志也此のゆへにのみをきまりせせん
陸謙が二かひあり
酒のなをらひひごや
うふかひひもころりや
い内くこさや
まこのゆとまきとてまをぞ
さぬたにあらるたす
さ手まひつゆあふいふ
ゆとよりまをまのりやうす
うかひひはひつぞやあひびさ
あてひも
ぞさる

高大尉の

ひさしひれは
ゆえん
そさる
松さる
あはりに
たひひれ
さ手あら



④あげうせられん
ありてかろひのこた
ちこにけしをひた
つれまのりなりか
高尉はたはひの
とにをて
のさる
が書をとひさ
つひあ
さ手ひと
父の大尉高
守ひのこ
けんをさ
大ゆり
己さの
まひひ
林沖
あはり
己れ
さ手

きけすの要との
けれん林沖たふり
こころ陸謙は
あそむは
りけんをのすま
錦兒うけ
うしそやうけ
たすけ
あはりの
林沖は
とく陸謙
たるとつ
すさる
かけの
とに
ひる
うちた

① ち
②

林沖
あはりに



林沖

ふ安陸謙
か

江戸譯



口上
この書は四日八日とありておろ
ひせりしに林沖がそ
まてりまづじのあちま
にいでての候もどと
立いでまづ水茶をす
るはありしにまづ
おろしき男二のつら
りてそふたす
ことふひのつら
おろしき男二のつら
りてそふたす
ことふひのつら
おろしき男二のつら
りてそふたす
ことふひのつら

猿蟹まのり

六々園主人著 小本全一冊

戲場顯微鏡

黙老漁隱著 歌川國貞画

活金剛傳

立川馬馬撰 初編二編出来

四十八手関取鏡

右同撰 歌川國貞画 中本全一冊

富嶽三十六景

前北齋 為一画

水滸傳豪傑双六

歌川国若画 奉書三枚

此書は... 猿蟹まのり... 戲場顯微鏡... 活金剛傳... 四十八手関取鏡... 富嶽三十六景... 水滸傳豪傑双六... 歌川国若画... 奉書三枚... 上りおろしものあり

天保三年壬辰春新板發行

大仕掛忠臣藏双六
歌川國安画
表書一枚紙
初書のあまひり

聲色早合點
五柳亭徳升作
中本全一冊

團扇地紙繪
その外東のしほ紙

せんぎの妙系
御免せよやつ

蘭玉屑
江戸元弘店小石川春日町

痘瘡毒消免血丸
江戸元弘店小石川春日町

漢楚實擬選軍談
初篇ヨリ
三篇道出来
四篇
辰新板
曲亭馬琴作
歌川國安画

千代楮良著聞集
第一輯
上帙四冊
下帙四冊
歌川國安画

朧笠雨小春空癖
前編四冊
後編四冊
柳亭種彦校合
歌川國貞画

菊の并小七
時雨傘對菱紋
全六冊
志満山人作
歌川國信画

戲場稿本當現建
三篇四冊
四篇四冊
立川馬馬作
歌川國貞画

近松本蝶衝級之錦
八冊
柳亭種彦作
歌川國貞画

曾我物語
美艷の仙女
各價
五丁角
坂本氏
江馬馬喰町三丁角
永寿堂西村屋與八

